令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　大積　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国の平均正答率を下回っている。ただし、「書くこと」においては、全国平均を上回っている。
	よくできた問題	話し言葉と書き言葉との違いを理解することや文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができている。
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことや物語の中で登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることに課題がある。

算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国の平均正答率を上回っている。特に「数と計算」において平均正答率が高い。
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述することや数の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、数を求めることができている。
	努力が必要な問題	分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え、考察したりすることや図形を構成する要素に着目し、図形の種類を判断したりすることに課題がある。

理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国の平均正答率を上回っている。特に「生命」を柱とする領域において、平均正答率が高い。
	よくできた問題	自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができている。
	努力が必要な問題	正しい器具の使い方などに課題がある。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
・朝食を毎日食べている児童の割合が全国平均に比べて高い。また、毎日同じくらいの時刻に起きている児童の割合も全国平均に比べて高く、規則正しい食生活や基本的な生活習慣が定着している児童が多いことが分かる。 ・人が困っているときは、進んで助けている児童の割合や友達と協力するのは楽しいと思う児童の割合が全国平均に比べて高く、思いやりの心の育ちや良好な人間関係を築こうとする態度が伺える。 ・家で自分で計画を立てて、勉強をしている（学校の授業の予習や復習を含む）児童の割合が全国平均に比べて高く、自主的に学習に取り組む態度が培われている。 ・地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある児童の割合が全国平均に比べて高い。地域や社会に貢献に貢献しようとする意識の高さが伺える。 ・学校でコンピュータなどのICT機器を使って他の友達と意見交換したり、学習課題について調べたりするために週1回以上使用する児童の割合が全国平均に比べて低く、教科におけるICT機器の活用が課題といえる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・毎週月曜日の算数タイムを継続して行い、数の処理の仕方やデータの活用、図形の作図などの問題を重点的に復習する。
・朝自習やすき間時間を使い、漢字の習熟を図る。
・学校図書館職員によるブックトークを継続し、読書環境を更に充実させながら読書活動を広げていく。
・教科におけるICTの活用などを更に推進し、意見交換や調べ学習等の活動の充実を図っていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・大積っ子がんばりカードを活用して、家庭学習習慣や規則的な生活習慣をさらに定着させる。
・家庭学習ウィークを設定し、家庭での学習習慣の定着を図る。
・自分で計画を立てて進める自主学習の定着を図る。参考自主学習ノートを掲示し、内容の質を高めながら家庭学習の時間を増やしていく。